

労働組合(二)電気局に對する要求と其経過(三)電気局の態度(四)四月罷業の近因(五)罷業の経過及其後の成行の五項に分ちて記述せんとす。

一 日本交通労働組合

△組合の成立

日本交通労働組合は、大正八年九月三日東京市外中澁谷字宇田川、日本メソジスト教會講義所に於て創立總會を擧げ、出席者三十五名、席上當時時事新報記者中西伊之助を組合理事長に選舉し、左記宣言、綱領、組合規則を議決し、次いで第二回役員大會を同月八日、三の輪に開き其準備全く成れり斯くて同十一日、本所區江東俱樂部に於て、市電本所出張所従業員七百名より成る、本所支部の發會式を擧げたるを最初として、間もなく其他九ヶ所の出張所に支部設立に成功し、之れに加盟する組合員約六千名、殆ど市電従業員の全部を網羅して、一躍有力なる労働團體の班に伍するに至れり。而して同組合各支部所屬組合員概數及其設立期日左の如し。

本所支部	市電本所諸従業員約七百名	八月十一日設立	三ノ輪支部	同	三ノ輪詰同約七百名	同	廿五日設立			
三田支部	同	三田詰同	約千百名	十月七日設立	青山支部	同	青山詰同約七百五十名	同	十三日設立	
巢鴨支部	同	巢鴨詰同	約六百五十名	同	廿五日設立	廣尾支部	同	廣尾詰同約三百名	十一月二日設立	
新宿支部	同	新宿詰同	約六百五十名	同	七日設立	有樂橋支部	同	有樂橋詰同約三百五十名	同日	設立

玉川支部	玉川電車	同	約六十名	十二月廿七日同	王子支部	王子電車	同	約百名	九月廿二日設立		
大塚支部	市電大塚詰	同	約三百二十名	同	設立	早稻田支部	同	早稻田詰同約三百名	同	同日	設立
新宿自動車支部	市街自動車	同	約五十名	二月廿六日設立							

△表中玉川、王子、新宿自動車支部は這回の電車問題に直接の交渉なけれど、同組合の所屬にあれば補記す。

宣言

吾等勤勉なる労働者が、其の人格を社會に認識せしむる可き時代が來た。吾等労働者の額から迸る汗は總て國本を培ふ貴重なる榮養分ではないか、殊に吾等は交通労働者である。鐵道、軌道、通信、船舶其他國家存立に重要な交通機關は、總て吾等の手に依つて運用せられる、如何に多くの生産品が原野に山積せられても、吾等の力に依らねば多數の國民に供給する事は出來ぬ。如何に廉價の生産品が他國に在つても、吾等の力に依らねば自國の人々には三文の利益にもならない。即ち工場生産は縦の生産であり。交通生産は横の生産である。既に歐米の交通労働者は、其の大會で鐵道生産、軌道生産の語を使用して居る。人間運輸は更らに之れよりも重要な役目である。吾等は文明と野蠻が人間運輸の完備如何に依つて決せられるのを見る。故に交通労働者は文化の母である。若し世界から交通機關を取り除けば、必らずや世界は太古に復るであらう。故に交通労働者は國際的使命を帯びて居る